

「M情報デスク」サポート団体
 NPO 法人百人の会 救う会大阪
 秋田美三輪さんを救出する川西市民の会
 現代撫子倶楽部
 米国に原爆投下謝罪を求める会
 日教組の違法行為を追及する市民の会
 竹島を奪還する会・関西
 靖国神社に眠る御霊に感謝する会
 大阪の公教育を考える会、他

MASUKI INFO. DESK FIGHTING REPORT

読者の皆様へ
 感謝の言葉

No. 156
 【発行・編集】
 MASUKI情報デスク
 増木直美
 大阪府豊中市上新田2-6-25-113
 TEL 090-3621-1509
 FAX 06-6835-0974
 http://mid.parfe.jp/
 mid@jewel.ocn.ne.jp

議員たるものは



森脇保仁兵庫県議ご夫妻；ピントが合ってなくてスミマセン！

の月14日、兵庫県宝塚ホテルで、ある県会議員の、議員生活10周年記念のパーティが行われた。
 女将の言葉をそのまま引用すると、
 「金屏風をバックに...」
 こんな写真は10年前の結婚式以来ですが、在職10周年のついで、会場は結婚式を挙げた宝塚ホテル。部屋もその時と同じ宝寿の間。着物は結納の時に着たもの、そして気付けは結婚式の時も気付けをしてくださった美容室の先生でした！
 なんだか私の人生、こうなることは、その時に決まっていたのかも知れませんね！
 いずれにせよ、たくさんの方々に支えられてここまで来れたことに心から感謝

をしたと思います。
 ありがとうございました！」
 (それで今、幸せか不幸せかどっち?)
 ある県会議員とは、森脇保仁兵庫県議会議員。今話題の、野々村号泣前議員と同じ議会仲間だったのだ。方や、超ベテランとまではいかないが、中堅のボス。方やもうじき被告人席にすわる犯罪人。
 余談だが、この野々村、絶対おかしかった。それで彼が辞表を出したとき、議会事務局に電話を入れ、告訴の意思の有無を問うた。もちろん返答できるわけもなく、ムニャムニャムニャ。そこで、軽く一発。「議会で告訴しないなら、私が刑事告訴します。県民はどう思うでしょうね。」私は、左翼君が率いる、〇〇オンブズマンが告発すると言っているようなので、そこには負けたくなかった。彼らは監査請求したという。アホちゃうか。告発したら警察が全部調べるのに。詳しいようで何も知らないオンブズマン。私の奮しが聞いたらしく、翌日兵庫県議会は野々村前議員を刑事告発。
 さて、話を元に戻し、今回の政務調査費、いかなるものか、私なりに調べてみた。大阪市役所に行き、大阪市の、だれのを調べようか。自民党幹事長の調べてみよう。柳本先生の調べてみた。完璧。全く不審点は見つからなかった。ただ、悪意をもって見ると、ポスティングの人たちの交通費を手製の領収書で作成り、相手は墨塗り。墨を塗ったのは議会事務局であり、彼ではない。意地悪く言いうと、親戚か友達に書かせた可能性も否定できない。と言うことにはなる。しかし、数千円の大した金額でもない。
 さらに話を元に戻そう。実は嫁(直美)は(自称)たいへん優秀な森脇議員の秘書。女将と二人、頭を摺り寄せ政務調査

費の整理をする。そうして必ず数割返金する。一旦、月額約10万円を預かり、余った分を返金するのがルールだ。だから議員はルール通りにやっているに過ぎない。しかし、現実問題、〇ではないが余ったお金を返金した話など聞いたことがない。彼は、「森脇は返金した。」と言われたいがためにそうしたわけでもない。別に工工恰好しようと思っそうしているわけでもない。彼の頭の中は、食べ過ぎると健康に悪いから、無理して食べない。カニングや万引きの癖がないのだ。そういう感覚なのだと思う。スピード違反はよくやるが。要は、天然返金なのだ。さて、野々村氏。彼は今回横領。もちろん違反だが、全額インチキしたわけではないと思う。彼も多かれ少なかれ、政務調査にある程度は使



サンケイ政治部論説委員 阿比留瑠比氏

「M情報活動報告」編集指針；政治や国際問題、市民活動に全く無縁だった一般の人達に、「おばちゃん語」で政治を届ける

録や領収書を保管していなかったのだろう。だから城崎視察100回などと、書かざるを得なかった。警察で、「思い出せ〜」と思いつくり絞らねえだろ。

森脇議員もびつびつ文句を言う。よく議会事務局と喧嘩をしているという。失礼議論を交わしているという。しかしきちっと記録している。

当たりの前ことを当たり前としている。これが最も大事なことはなからうか。ごまかそうとか、架空領収書で、ちよつと猫ババ。そういう発想がないのだ。

議員の故父上も市会議員だったらしい。失礼ながら、「育ちがいい。」とはこのことだろう。2世議員を批判する声もあるが、なぜ2世議員が悪いのか。

森脇保仁「兵庫県議15周年記念講演 阿比留留比サンケイ政治論議委員 」安倍政権と今後の進路

「講演を拝聴し、記事にしようと思えば、まず「文字お越し」。そしてそれを紙幅に合わせ編集。ところが阿比留氏、紙幅にびつたりとはいかないが、「自分で要約されて、ほぼ、びつたりはまり。実

に手のかからない、講演者だ。」

「講演は、「NPO 法人教育再生地方議員百人と市民の会」↓「動画」↓

「H26-6-14」アップされています。◎氏の文面で、「講演と抜けているのは、「2年以内に憲法改正がある」と言っている。

【阿比留留比の極言御免】

後輩官僚にさえ嘘、河野談話こそ潜む「上から目線」

2014.6.19 13:57 (1/3ページ)

慰安婦募集の強制性を認めた平成5年8月の河野洋平官房長官談話の問題点は枚挙にいとまがない。中でも談話が国民不在の密室でつくられ、発表後は慰安婦問題で対外折衝をしなければならぬ政府内の担当者すら作成経緯や実態が秘匿されてきたことは、弊害が大きい。

本来は引き継がれるべき情報を、河野談話作成に直接関わった少数の関係者が囲い込み、密封してきたのだ。その結果、後進は談話の事実関係や発表に至る事情も分からないまま、談話に縛られてきた。ある外務省幹部との会話で以前、こんなことがあった。産経新聞がこれまで取材してきた河野談話をめぐると韓国政府のすり合わせの実情が話題になると、こう求められたのだ。

「一度きちんと身を教えてほしい。われわれも(関係文書を)見せてもらえないんです」

河野談話発表から2年後の7年8月に内閣外政審議室長となった平林博氏も今年3月、同僚記者の取材に対し、驚くべきことを語った。談話のほとんど唯一の根拠となった韓国での元慰安婦16人の聞き取り調査結果について、こう明かしたのである。

「慰安婦の証言は、実は見ていない。あれは『秘』だということです。『マル秘』なんだと」

2014.6.19 13:57 (2/3ページ)

河野談話の原案は、前任の内閣外政審議室長である谷野作太郎氏が「言葉遣いも含めて中心になって作成した」(元同室

関係者)とされる。にもかかわらず、後任の平林氏は見られる機会がなかったというのだ。

内閣外政審議室は、平林氏のさらに後任の登誠一郎室長時代の10年3月にはわざわざ谷野氏らOBを呼んで懇談し、慰安婦問題に関する政府調査や河野談話の作成過程などについていろいろ問いただしている。

これも、文書その他できちんと引き継ぎがなされていれば、必要がなかったはずである。この場で谷野氏が、河野談話をめぐると韓のすり合わせについて「根も葉もない噂」と事実と異なる話をしたことは17日付本紙で書いたとおりだ。

慰安婦問題で韓国の「団体などが仕掛ける宣伝戦に対し、外務省の反論は及び腰で弱々しく見えるが、そもそも反撃するための具体的材料を与えられていないという部分もある。

このように国民にも後の担当者らにも事実関係を伝えず、もちろん学識経験者の検証も受けず、河野談話は左派・リベラル勢力に神格化されてきた。そして河野氏自身は談話を自賛し続けて今日に至る。

「(安倍晋三首相は)議員に上から目線で接していることが少なくない。議員の背後にいる国民に著しく礼を失している」

2014.6.19 13:57 (3/3ページ)「批判に耳を傾ける謙虚さも自分を抑制する姿勢も見られない」

河野氏は月刊誌「世界」5月号のインタビューで、「安倍首相を厳しく批判していた。だが、国民は事実を知る必要はないとばかりに「上から目線」で河野談話をつくり、世界に「性奴隷の国」と

のイメージを広めたことへの批判にも一切耳を傾けようとしてこなかったのは誰だろうか。

河野氏に国民に対する「心からのお詫(わ)びと反省の気持ち」(河野談話)を求めても、もはや無駄だろう。せめても少し自分を抑制し、これ以上、日本の足を引っ張らないでほしい。(政治部編集委員)

塩村議員の大泣き「一言 M情報 増木重夫

いくら「やめろ！ 写すな」って言ってもハイハイと聞く連中ではない。彼等マスコミはそういう連中であることをまず肝に銘じる。そして彼等の餌食にならないようにこつちが気を付ける。それしか方法はないんじゃないかな。

ネットウヨ(?)が「行動」と称して騒乱を起こすすぎた。一時右翼が国旗を車から引きずり走り回り非難された。それにとつてかわり(そこまでオーバーでもないが)非難の的になっている。

物事はいろいろな見方がある。一部からは可でも一部からは不可。マスコミはいかにケチをつけるか。ケチをつけてナンボがマスコミ。今回の鈴木都議のヤジや、石原大臣の「金目」発言。マスコミが自分らの利益のため騒ぎを大きくしている。世論をミスリードしていく。石原大臣の、「金目」、どこがおかしいの。私の娘が事故で死んだら、相手が謝る前に「金出せ」少々下品だがそれ以外にどんな方法があるの。石原大臣、相手が怒ったらその瞬間、「すみません」と言って帰ってきたらいいのに。「言論の自由」を否定するマスコミのレッテル貼りの餌食にならないことだ。

百人の会平成26年度総会

事務局長 増木重夫

京都北山の宮司 中村重行

心の情操教育(心の教育)

の月28日、平成26年度のNPO法人百人の総会が新大阪で行われた。総会では、森脇保仁兵庫県議を議長に選出し、議長の人徳か?①平成25年度の活動と会計報告、②人事案件、③平成26年度の活動計画と予算、すべて満場の拍手で可決。

引き続き、講演会。今回は、同じ教育を語るにしても、まったく異質なお二人にお越いただいた。お一人は中村重行氏。京都北山細野の神主ですが、若かりし頃はヒマヤラ遠征隊長を務めたり、冬は鉄砲担いで狩猟。趣味三昧の生活。私たちは道楽宮司と呼んでいます。そこから生まれる心の余裕が神との通訳を可能にし、また、子供たちへ、神からのメッセージを語ることができるとおもいます。

もうお一方は、5月11日(日)読売「くまのたまご」で言う「委員会」で、あの田島女史を黙らし(その後、田島氏はスト決行中)た、山本優美子氏を東京よりお迎えしました。彼女を一言でいうと、運動のセンス、感性がいい。だれよりも早く確実に問題を捉えます。自己現場に一番乗りするパトカーみたい。今回もいち早く米国や他の外国での慰安婦像の情報をキャッチし、その危険性を訴えました。彼女の運動感、運動に対する思い、そして慰安婦像の今後の問題点を語っていただきました。



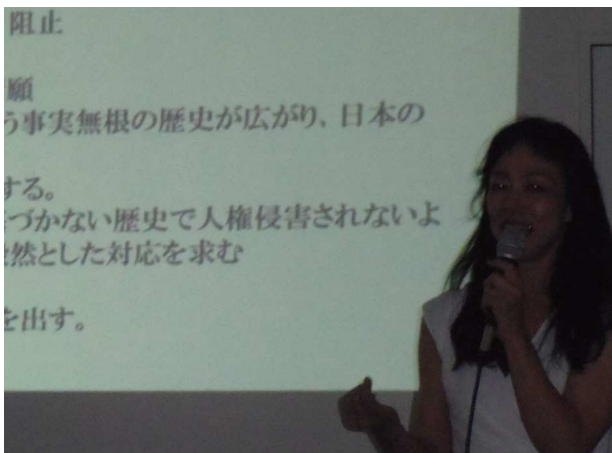
京都北山の宮司 中村重行氏

情操高い精神活動に伴って起こる感情情緒よりも知的な観念作用が加わって安定感があり、対象に対して習慣的に持続する情緒的態度である。対象により知的、美的、道徳的、宗教的情操に分かれる。何故日本野あそび協会を立ち上げたか、「子供はあそびの中から人生の術を学ぶ」「子供は手から偉くなる」あそびを教える中で判ったこと、子供のこと、親の事、

そは一夜漬けの受験勉強と同じ。
・私の神道観について
日の本に生まれ出し日本人は 神より出て神に入るなり
「神さまが見てはるよー」この言葉が生活の中に生きてこそ
・どうしてこの言葉を生活の中に生かしてゆくか?
毎朝の神さま(神棚)ご先祖様(仏壇・祖霊舎)への感謝から
・子供の教育は親がするもの、家族の絆を大切にすることを徹底的に教える(血の繋がりこそ日本家族の原点、日本の家族は母系家族。母親の大切さを認識。)・家族構成は子供3人。
一人は家業を継がせる。一人は自分の好きな道を歩ます。一人は人のための仕事をさせる(役人、公務員、軍人、医者、教育者、宗教家、政治家など)
・親が学ばなければ子供は学ばない(生涯学習とは?シジイ、ババアだけが学ぶものではない。「老いて学べば死して朽ちない」など信じない)
・結論・子供への心の教育とは大人の生き様を子供に見せる事である

なでしこアクション 山本優美子氏
グレンデル慰安婦像問題の全容
大阪とはなじみが薄く初めて話させていただきました。

慰安婦問題は男性より女性がいい。今アメリカで慰安婦像の問題が大きくなってきたのは、韓国人の人口の急増に原因がある。韓国人は米国に約200万人。0.0%。教会をベースに集団で住んでいる。ドクト(竹島)の看板があちこちにある。韓国人が多いのはカリフォルニア、ニューヨーク、ニュージャージー、バージニア。人が多く、票が多いと慰安



なでしこアクション 山本優美子氏

婦像が立ちます。いつの間にかキリスト様の像にチマチョロコを着せられている。問題なのは、日本の700ほどの地方議会のうち、43の市議会が、「日本政府は謝罪しろー」という決議がなされています。この意見書が国連に利用されます。日本のNGO、市民団体がしपोर्टを書くと、宝塚の意見書が原型ですが、謝罪せよ、賠償せよ、教科書に載せろ、加害者を訴え処罰せよ。日本のことをあまり知らない人権委員会(主に弁護士)はこのレポートを信じちゃつ。そして日本政府に勧告しちゃうんです。後は国連様の言うとおりになってしまう。だから、「百人の会」からでも国連に手紙を出してほしい。グレンデル市も同様で、日本からの左系自治体の意見書を信じてしまう。これらが元になり米国各地で慰安婦像設置の意見が通ってしまう。以下動画を。全講演は前ページ、阿比留氏の動画の次にアップしています。是非ご覧下さい。

最早紙媒体の新聞の運命は尽きようか

東京白井裕一

最早、紙媒体の新聞の命運が尽きようとしている。地方の方はピンと来ないかもしれないが、電車に乗って辺りを見回せば一目瞭然である。電車の乗客のほとんどが、今や、スマホかポータブル端末を開いて周囲も気にせず夢中になっているのである。

紙媒体のものを読んでいる人は、文庫本がほとんどで、雑誌も新聞も、読んでいる人は本当に見かけなくなった。時折、紙媒体の新聞を読んでいる人を見かけて、目を凝らしてよく見てみると、聖教新聞やしんぶん赤旗だったりするWWW

勿論、一般紙も見かけるのだが、日経であることが多い。これには理由が有って、聖教新聞もしんぶん赤旗も、インターネット配信のデジタル版が無いからに他ならない。

しんぶん赤旗は、財政的な理由でデジタル化出来ないようだが、聖教新聞は、多分、印刷させている毎日新聞社などの各新聞社印刷局への配慮からデジタル化に移行していないものと考えられる。

日経は、駅の売店で購入する割合が高いためである。宅配された新聞を、電車に乗る際に持参して開くという行為は、今やほとんど見かけなくなると云っても過言ではなからう。

考えてみれば、これは自然な成り行きである。そもそも、電車内で読むにあたっては、現行の新聞紙のサイズは大き過ぎるのだ。タフジなどのタブloid版でさえ、満員電車ではページをめくるのに一苦労するのである。

新聞の一般的なサイズのプランケット版で、日本の都市部(特に東京近郊)での満員電車内で広げて読もうというのは至難の技である。

小さく小さく折りたたんだ上で、少しづつ折り方を変えてからページをめくらないといけない。

電車内で新聞を読むには、相当なテクニックと努力が必要なのである。ところが、それがデジタル紙面のスマホなら、折りたたんだり、ページをめくる必要は皆無である。

もし、拡大したい箇所があればズームで拡大すれば良いのである。

今迄、周囲の人間に当たらないように、怖々と新聞をめくっていたのが馬鹿らしくなるくらい、スマホやポータブル端末は便利で、電車内で読むのに適しているのだ。

こうなると、通勤・通学する世代は、紙媒体の新聞からデジタル版にどんどん移行していくだろう。

紙媒体の新聞を愛読するのは、自宅でのんびりくつろいでいる主婦が高齢者ということにならう。

しかも、若い世代は、紙媒体の新聞を忌避する可能性が出て来た。まず、読み終わった古新聞である。

かつては、この古新聞を活用して、いろいろと家事を行ったものである。小さくちぎった新聞紙を水に濡らして、畳の上に撒き、埃を付着させてから帚で掃いていくといった掃除のやり方があった。しかし、今や電気掃除機が有るし、粘着

テープ型のコロコロが有る。最早、古新聞は、場所を取り、しかも重量が有るゴミでしかない。

現に、自分が新入社員だった約20年前でさえ、同期の同僚が古新聞が邪魔であるという理由から、毎朝、通勤の電車内で新聞を読んだ後は、職場のゴミ箱に捨てていた。

古新聞に関して、邪魔でしかないと意識を持つ若い世代は、意外と多いのではないだろうか。

更に、新聞紙のインクの問題がある。

新聞をめくっていくと、指が新聞インクで真っ黒に汚れてしまうのである。これも人によっては許容し難い事柄かもしれない。また、一か月に約4000円から5000円も出費するコストの問題も有る。一年にすると、5万円から6万円にもなる。

現在、デジタル版の費用は、紙媒体よりも安価に設定されていることが多いから、家計防衛の面からもデジタル版へ移行する機運は否応なく高まっていくことだろう。

それに、インターネットならば、無料で大概のニュースは事足りてしまう。

紙媒体の新聞というメディアは、最早、ノスタルジーな代物になりつつある。

さて、紙媒体の新聞というメディアが著しく縮小、もしくは滅亡ということになった場合、いかなる社会的影響、変化が出てくるだろうか。

まず、営業力やブランド力で支えられてきた発行部数による社会的影響が無くなる。例えば、かつては、読売新聞なら1000万部、朝日新聞なら800万部の発行部数を誇った。つまり、それだけの人々への情報提供媒体として君臨していた訳である。

社会情勢の把握や理解も、新聞の紙面や論調によって教導、誘導されてきた訳である。

いわゆる大衆の世論も、これら新聞の論調や文体に著しく影響されていた訳で、大衆自体は自らの認識や判断によるものとされてきたものが、元をただせば、単に新聞記事の受け売りだったことが多かったのである。

「売上税反対!」とか「今こそ政権交代!」といった見出しが躍った新聞を読んで、少なからず、国民は投票行動を決定していた訳である。

だからこそ、大新聞の独裁者である、ナベツネ(渡邊恒雄)が政治的なフィクサーとして君臨出来ている訳であり、朝日新聞の論説一つで内閣や政権がいとも簡単に吹っ飛んだ訳である。

ところが、インターネットを介してのデジタル版は、発行部数に替わってサイトへのアクセス数が重要となった。

サイトへのアクセス数は、かつてのような新聞拡販の為の営業力や「親の代から」とか「クオリティパーパードから」といったブランドの力では稼ぐことができない。

ネット検索上の技術的テクニックが有ることは有るようだが、一番のアクセス数向上の近道は、口コミである。

いかにネット上で、シェアされ、リンクが貼られ、「いいね!」が押されるにかかってくるのである。

そうなると、ネット上で好まれる論調や記事がアクセス数の上位に上がってくる。

そこで、従来の新聞社としての社会的影響力が格段に変化した新聞社が有る。産経新聞である。

産経新聞は、今もって、発行部数が2

〇〇万部に遥かに届かない。しかも、大阪近郊と東京近郊以外は、ほとんど見かけない。地方に行くと自分が困るのは、駅の売店やコンビニ、ホテルのフロントに行っても、その県の地方紙は販売されていないのも肝心の産経新聞が入手出来ないことが多々有ることである。特に九州ではない。

産経新聞は、実は全国紙ではないのである。ところが、ネット上での産経新聞の記事の影響力は凄まじい。掲示板やブログ、ツイッターや SNS にほとんど引用され、リンクが張られ、シェアされている。

かつて、産経新聞の論調は、それこそ、ごくごく少数の好事家々ぐらいしか共有されていなかったのであるが、現在は、「産経新聞によると」ということで、ネット上に広く拡散されているのである。

先月の、いわゆる「河野談話」に関してのスクープ記事も、かつてのような、インターネット不在の時代であったなら、巷の話題にもならないような代物であったろう。

ところが、現在は、「紙媒体の新聞」としての産経新聞は読まなくても、ネット上で産経新聞の記事に触れている人は膨大な数に上っているだろう。

新聞社も、儲かってナンボの企業であるろうが、その論調が社会的に影響力を広げ及ぼすということを主眼に置くとするならば、産経新聞はネット社会に於いて「大化け」したのである。

一方、「新聞の雄」であった朝日新聞は、相対的に大きく社会的な影響力を減少させてしまった。

ある。慌てて、「ここから先は有料」という記事を減らしてきた。産経新聞は、その点、したたかに、掲載記事を比較的早期にネット上にアップしている。

ネット上での新聞と紙媒体の新聞の決定的な差異は、紙面構成や見出しに於ける編集権である。

新聞の第一面のトップに、どのニュースを、どれだけの大きさで、どのような文言の見出しを掲載するかというのは、優れて、その新聞社の論調を表現している。だから、その新聞社が、読者に強く認識させたい事柄を紙面構成や見出しによって誘導することが、可能であったのだ。

ところが、ネット上では、確かに、サイト上位に「一押し」の記事を持って来ることは出来るが、紙媒体の新聞の一面トップ記事のような扇情的な影響力は持ちえない。

ネット上では、単なるネタ記事が、不思議とアクセスランク上位に躍り出るような椿事も充分に起こり得るのである。

現在、新聞業界に於ける論調の主流は、左翼・リベラルである。

朝日・毎日・中日(東京)・日経、そして北海道・西日本・京都・河北といった地方新聞は軒並み左翼・リベラルである。地方紙に於いては、共同通信の記事の配信が有るので、通信社の論調が左翼・リベラルであることの影響が大である。ほんのついこの前までは、読売も比較的、リベラル的であった。

ところが、ここ最近、靖国神社参拝容認を除いて、著しく保守派へ舵を切った。だから、現在、産経と読売が保守派の論調である。

朝日新聞の最近の論調は、もう、金切声のヒステリックである。特定秘密保護

法、集団的自衛権容認、原発再稼働といった事柄になると、もう、明日にでも「世界の終末」が襲来するかのような論調である。ただ、そんな中で、朝日新聞にも小さな変化が見えて来た。

かつて、中華人民共和国(中共)に関して、ネガティブな報道はタブーであったが、「人権侵害」という一点に於いては、鮮明に中共批判を行い始めた。

ただ、「戦後平和の守護神」としての朝日新聞の論調は、まだまだ堅牢である。話しは戻るが、その左翼・リベラル主流の新聞業界の論調が、社会的な影響力が相対的に低下すれば、国民の投票行動に於ける影響も変わって来ざるを得ない。現に、明確な左翼政党、社共は、公明党よりも少ない。

左翼的な政党とも云える、生活の党や民主党を含めても、議会内での影響力は限定的になったしまった。

しかも、生活の党や民主党は、時と場合によっては自民党に同調してしまうことも有るのである。

最早、絶対反対、断固反対というスタンスは、社会的影響力を減じつつある。更に、紙媒体の新聞を愛読し、ネットでの情報収集に依存しない数多くの高齢者層は、毎年毎年、その数を減らしていくことになる。

いくら、高齢化社会になり、「老いてなお、意気ますます盛ん」といった高齢者が増えたとはいえ、かつてのような行動力や経済力は誇示出来なくなるだろう。

現に、七十歳代も半ばを過ぎると、急激に身体能力が落ちていく。

足が上がりなくなり、引き摺るようになって、ついにはびっこを引くようになってしまった。

そして、結局、80歳を迎えることなく、78歳で逝った。

現在、左翼運動の底辺を強固に支えている高齢者層が、ほとんどリタイアしていくようになった場合、かつてのような人海戦術、労働集約的な街頭運動を繰り広げていくことは困難になっていくかもしれない。

(我々も同じですよ。人の心配より、わが方の心配をしましょう。マスキ)

左翼が、政治的に「頓死」する可能性も有る。

自分は、左翼が「頓死」するとは思わないが、現時点では、その影響力はどんどん漸減傾向にあると思う。

その原因の有力な要素として、紙媒体の新聞というメディアの黄昏があげられると思う。

最早、紙媒体の新聞というメディアは、その寿命が尽きようとしている。宅配といったコストも高くなっているし、現行の紙媒体の新聞というメディアは維持不可能だろう。

但し、かく申す自分は、紙媒体の新聞というメディアが大好きなのである。何しろ、小学生の頃から朝日新聞の政治面を読みふけていた人間である紙媒体の新聞というメディアを毎日読み込んでいくというのは、骨の髄まで染み付いた習慣なのである。

各位よりホットニュース

「龍柱門」の建設について 7/17 柏市 小松隆夫

沖縄県那覇市で進められている「龍柱門」建設について 緊急連絡

ご存知の方もおられることと思いますが、今、那覇市では秘密裏に那覇市の中心部に「龍柱門」の建設が進行されています。

龍柱は、デザインを含めて丸投げで共に発注されて居りますが、計画が遅れており未だ搬入はされていません。

龍柱の意味は、龍の爪が5本の龍柱が建つ地域は皇帝(中共・習近平)の領土を意味し、4本爪の龍柱は朝貢国を意味するものだそうです。3本爪の龍柱は化外の国を意味するのと同じです。

現在これの建設予定地近くの公園には、既に孔子廟が建設されており、更に明倫堂の建設が計画されています。(明倫堂・久米36姓《福建省から久米村に移住した人々の総称》の末裔で構成される、久米崇整会が管理運営している至聖廟) これらから推測しても、将来中共が沖縄を独立分離させ、中共の自治区を目標んでいることは明らかです。

龍柱門は高さ15m、直径3mのバカでかい2本の龍柱が建つことになりました。

松戸の女性が那覇市に対して龍柱建設に関する情報公開の請求をして、受注業者及び下請業者の情報を開示させました。その公開資料には、「那覇・福州友好都市交流シンボルづくり整備工事(その1)」とあります。

と云うことは、(その2)(その3)・・・が当然あることを意味します。

龍柱、孔子廟、明倫堂の情報開示の請求を是非行つて下さい。これ等は言うまでもなく、国民の税金(交付金など)、県民税で建設されるのです。こんなもの関節を認めてしまったら、沖縄は中共の属国になることを認めることになってしまいます。

公文書公開請求書様式はFAXで請求して下さい。

14日に那覇市の方々が平山起夫議院事務所を訪問した時のYoutubeをご覧下さい。

<http://youtube.com/Ss7QGenH7E>

那覇市役所
住所：〒900-8585 沖縄県那覇市泉崎1丁目1番1号
電話：098-867-0111

「ハイトスピーチ」規制 7/11 M情報 増木重夫

以前から議員や警察を通じて頼んでいたことが、こういう形(タイミング)で政策化されました。さすが橋下、「第三者機関」を持ち出してきました。

在特会をはじめとする、各団体(主に若い人)が競ってきたない言葉で街宣やデモを行う。迷惑の極みでした。

ハイトスピーチが叫ばれたしたのはこの5年ほど前から。20年間デモや街宣をしてきた私にとって、「デモ、街宣」「ハイトスピーチ」というレッテルを張られてしまい、デモや街宣がやれなくなりました。こそっと小規模にはやっています。

そもそも関西に在特を持つてきたのは私。これだけはわが人生最大の後悔だが、当初在特代表の桜井から「在日には特権が多すぎる。入管特別法の廃止の運動をしたい。関西支部長を引き受けてほしい。」と言われて、趣旨に納得し関西支部長を引き受けました。ところが、在特会はだんだんハイトスピーチを行い、おかしな方向に歩き始めた。私はそれに批判的。関西の昔からの活動家に相談しても、「在特はちょっとおかしいぞ。」ある日私は、「法を破った」という理由で桜井から解任されました。今思えば、臍が茶を沸かす様な話だが。

今の在特は3世4世でまったくかわらないが、関西に「ハイト」の集団、在特を誘致した責任は感じる。 増木

~~~~~

<http://mainichi.jp/select/news/20140711k0000m040117000c.html>

ハイトスピーチ橋下市長「ひびき」認めない方策検討

毎日新聞 2014年07月10日

特定の民族への憎悪や差別をある「ハイトスピーチ」について、大阪市の橋下ト+件徹市長は10日、定例記者会見で「ひどすぎる。大阪市内ではあんな集会は認めないとのメッセージを出さないといけない」と述べ、行政として対応策を検討する考えを示した。

橋下市長は、表現の自由を尊重する観点から「行政や警察が(集会を)すぐに認めないというわけにはいかない」とした上で、第三者機関が表現内容を審査し、道路使用の可否や被害者の訴訟支援などへの判断材料とする仕組みを作れないかを検討するという。

大阪高裁は8日、「在日特権を許さない市民の会」(在特会)による朝鮮学校へのハイトスピーチを違法な人種差別と認定。約1200万円の賠償などを命じた1審判決を支持し、在特会側の控訴を棄却した。【茶谷亮、重石岳史】

## 福岡市会でのドン、高山博光議員、彼らが政治のヒーロー 7/11 M情報 増木重夫

昨日、福岡市議会のドン、高山博光議員が関西視察の途中、辻理事長に表敬訪問をするため市役所を訪れ、私もお供した。

まず、御大は道中の駐車場の料金を車中からチェック! その値段を見て、関西経済の力強さを誉めてくれた。必ず景気は上向く。と。そして、市役所前で辻先生にあいさつ。そして御堂筋を南の方向に見て、ビルの容積率の話がされた。

「容積率を上げなだれが建て替えをするものか。容積率を上げる。高さ制限をなくせ。そうすればビルの新築化が進む。経済が活性化する。そもそも航空法などはプロペラ機の時代につくったもの。そんなもの時代錯誤だ。」

そこで、辻先生が、例の3号までいいが4号はダメと言う、橋下市長の講演の話がされた。もちろん話の中心は、「高さ制限の廃止」

私はこの時感動した。御大は橋下市長の「高さ制限なし」政策を知らない、プロの政治家(「田舎議員」などと言ったらぶっ飛ばされます)が、御堂筋の景色を見た瞬間橋下市長とまったく同じことを考えたのだ。



# アンコールワットの看板を修復せよ。7/10 兵庫県 館 健治

兵庫県在住、やから、失礼、つい口癖で。館健治氏がアンコールワットを旅された。そうすると、日本の援助表記の国旗部分が損傷していたのだ。氏は帰るや否や.....

アンコールプロジェクト研究室 (USA 広報) 御中

カンボジアへの国際協力、ご苦労様です。

私は宝塚在住の館 健治 (やかた けんじ)と申します。失礼とは存じますが、突然メールを差し上げます。

先週カンボジアのアンコールワットに観光で行きましたが添付画像のように、日本政府の援助を表記しているパネルが破損していました。

見た限りでは何者かによって意図的に破損させられているようにも見受けられました。アンコール遺跡群には世界中から観光客が来ており、(特に韓国・中国人が多いのですが)、破損した状態ではあまり見良い物ではありません。

ドイツ、イタリア、インド他、他国の援助表記パネルは何等損傷していないのに、日本の援助表記の国旗部分だけが破損しています。意図的に日本国の国旗を損傷させたのか、事故なのか自然に破損したのかは分かりませんが、損傷部分が一国民として、早急に補修

して戴きたくご連絡申し上げました。よろしく、お願い致します。 兵庫県宝塚市 館 健治

From: JSA 日本国政府アンコール遺跡救済チーム  
To: 館 健治

標識破損のご連絡を頂きまして誠にありがとうございます。

お送りいただきましたお写真の破損箇所につきまして、現地側に、至急修理の手配をするよう依頼致しました。

高温多湿等の厳しい気象条件により、カンボジアでは建材の劣化が早く、予期せぬ破損が生じる可能性があり、この度の破損に関しては、当団体に於ける整備不十分でありましたこと、誠に申し訳ございませんでした。

今後は、JSA-JASAにて修復を手がけてきたエリアにおいて、きちんとした環境整備に努めて参る次第でございます。この度は、ご連絡を頂きまして誠にありがとうございます。深く御礼申し上げます。今後とも、JSA-JASAを何卒よろしくお願ひ申し上げます。



# 《編集後記》5/21 礼なき移籍 M情報 増木重夫

日本維新の会は別れた。私が思うに、これは全く必然性があると思う。主に国を考える石原新党。そして地方を考える橋下維新。それはそれでいいではないか。ところが橋下風で当選しただけが考え

ても当選できない人も比例で当選した。その彼らの出て行き方。聞くところによると、挨拶無しがほとんどだったらしい。彼らは朝鮮問題のことになると、声高かに中韓批判演説をする。しかし私は、彼らにその資格があるのかと問いたい。中国人や韓国人でも、世話になった人から去る時はそれなりの礼は払うものだ。

# 活動資金(協力)のお願い

【J支援等の口座】  
郵便振替 006008240547 MASUKI情報デスク  
二番書庫「J銀」〒515中央区004349 普通 増木重夫

先ずは、平素より私どもの活動に力強いご支援を賜り心から御礼申し上げます。このレポートにもありますように、私どもは子供達に誇りある国を残すため、日々命がけで戦っています。ところが問題は活動資金。今まで以上にがんばります。何卒資金のご協力を伏してお願ひ申し上げます。

※ この、M情報機関紙は新聞の形態をとっています。M情報「活動の報告書」です。特に「購読料」は設定していません。カンパをよろしくお願ひいたします。

○ カンパ金の主な用途は下記団体の、  
・ 活動の資料等の発送費・道路、公園

# 原稿・同封資料の募集について

◆ 弊社「M情報活動報告」は現在のごく3毎月全国約5千(目標1万)部発送しております。掲載ご希望の論文、情報等ございましたらごん表記事務所まで

でお送りください。また、弊紙は郵メールで発送しています。重さ制限は50gです。また余裕がございますので、資料等の同封が可能です。ご相談ください。

# 諸情報のメール配信について

『M情報』では、日々、全国各地の仲間から、または情報収集の専門家から情報が送られてきます。それをメールで転送します。内容はご自身の多様多種多様。「量が過ぎぬお詫」を致しませぬ。

ですが、試して一度受信してみませんか。ご不要でしたら即停止いたします。要領は次のアドレスに「メール希望」と空メールを(発信名義「NPO法人百人の会」)。 h100prs@oregano.ocn.ne.jp